

市民に親しまれる国有林をめざして (94)

— 森林倶楽部の活動を通して —

蔵王森林センター 関 勝政

1 はじめに

秋田営林局では、森林の空間を利用した新たな事業の展開を図るために、企画・指導及び各種調査等並びに森林・林業の普及啓蒙を円滑に実施するため、森林センターを設置し、また、市民を対象とした「森林浴の集い」・「森林教室」など森林空間を利用した森林・林業及び国有林の紹介・PR等のほか、「H・G・P」の推進や「レクリエーションの森」の取扱いに関わる指導等を行っています。

蔵王森林センターでは平成3年度から、より充実した森林とのふれあいを目的にして、初めての試みである「森林倶楽部」に取り組んできました。

そこで今回は、「森林倶楽部」の取組み状況を紹介するとともに、加入者のアンケート調査等を基に、今後の倶楽部の運営及び各種イベント等における留意点を考察し、真に市民から親しまれる国有林を目指した一つの実践として報告します。

2 森林倶楽部とは

(1) 意義

近年、森林に対する国民の要請が多様化している中で、都市住民等に対し、森林空間を利用した森林とのふれあいの場を提供することが重要な課題となっています。森林の中で自然に親しみ、遊び、学ぶ喜びを味わうことができるように、森林とのふれあいを推進する中で、国有林野の利用を図ることは、意義のあることです。

(2) これまでの実施の経緯

年度	実施局(支局)	延会員数
元年	北見 東京 名古屋 大阪	1,019人
2年	北見 函館 東京 名古屋 大阪	1,258
3年	北見 函館 青森 秋田 前橋 東京 名古屋 大阪 高知	1,452

(3) 特徴(特典)

ア 有料会員組織で個人会員 5,000円 家族会員10,000円

(分収育林契約者 1,000円割り引き)

イ 各局で実施するイベントに参加できる

ウ 加入者へのサービス

- (ア) 森林空間利用情報の提供
- (イ) 木製章の提供
- (ウ) 情報紙の送付
- (エ) 林野庁関連宿泊施設・有名観光地提携施設の利用割引
- (オ) 各地の特産物の割引斡旋

3 企画・募集について

(1) 企画

開催地は、過去に「森林浴の集い」で参加者が最も多い山形市から日帰り可能な場所を選定し、① 開催場所を、その都度変える、② 季節の変化を楽しむ、(新緑から紅葉)等をねらいとして次のように企画しました。

回数	開催地	イベント名	内 容	参加費
第1回 6/2 (日)	西村山郡 西川町	月山の残雪と新緑 のブナ林を訪ねる	残雪の中で芽ぶくブナ林の 森林浴、姥ヶ岳登山	4,800
第2回 7/21 (日)	上山市	蔵王の高山植物を 楽しむ	夏の蔵王で高山植物の鑑賞 と蔵王高原での森林浴	3,600
第3回 10/6 (日)	米沢市	日本の名瀑百選 「滑川大滝」の紅葉 と秘湯をたずねて	滑川(阿武隈川支流)源流部 と滑川大滝を訪ね紅葉狩り 秘湯滑川温泉で温泉浴	4,400

(2) 募集

募集の規模は100名を目標に、山形市周辺住民をターゲットに絞り、山形・上山両市への広報紙掲載の依頼、これまでのセンターイベント参加者へ200件に及ぶダイレクトメールの送付、マスコミに対する新聞掲載依頼などの働きかけをしました。

4 実践から

(1) 応募状況と会員の概要

ア 応募定員100名に対し、県内外から多数の問い合わせがあり、結果的には定員の1割増の110名(個人55人・家族15世帯、55人)でスタートすることになりました。

イ 会員の概要

(ア) 男女別割合と年齢構成

下表に見るように、40～50代がピークとなっており、次いで50～60代となっています。最高齢は82歳。

なお、男女別では女性が多く全体の58%を占めています。

年齢別	男		女		計	
	人	%	人	%	人	%
～30	11	24	11	17	22	20
30～40	5	11	8	12	13	12
40～50	7	15	24	38	31	28
50～60	10	22	15	23	25	23
60～70	10	22	5	8	15	13
70～	3	6	1	2	4	4
計	46	42	64	58	110	100

(イ) 職業等の概要

職業は無職・主婦が19人と最も多く、次いで会社員14人、公務員7人、自営6人……の順となっています。

(ウ) 地域構成

山形市周辺をイベント会場にしたことから、山形市周辺で102名(山形64、上山23、天童、寒河江、山辺)で88%を占め、次いで東置賜郡6名(高畠、川西)、秋田県7名(秋田、能代、森吉)となっています。

(2) 参加者及びスタッフ

回数	場所	参加者	インストラクター	サポート	外部講師
1	月山	58	4 (4)	8 (2)	姥沢小屋支配人
2	蔵王	42	4 (4)	10 (8)	茂吉記念館館長
3	滑川	55	4 (2)	11 (1)	

()センター職員 内書

(3) 特徴

- ア 秋田の会員が3回とも参加
- イ 大阪局の会員の参加(蔵王)
- ウ テレビ放映(滑川)
- エ 自然館オープニング前の無料開放(月山)

オ 各自治体からの名産品の提供

カ センターからのネームプレートの贈呈（会員全員）

(4) 収支等

全体の収支については把握していないが、第2回の蔵王でのイベント参加料及び直接経費のみの収支は次のとおりです。

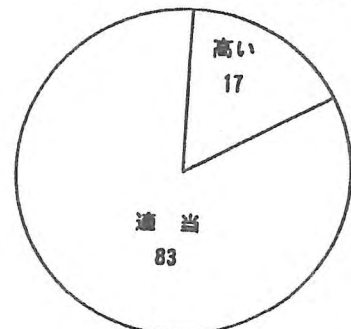
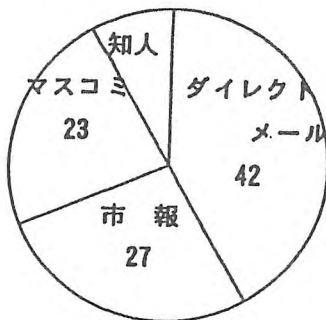
収入	会費	3,555×42	149,310円
支出	大型バスチャーター		114,000円
	みそ汁材料費		15,285円
	フィルム外		9,888円
	計		139,173円

※ 収支差 10,137円

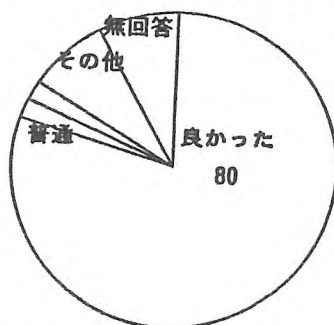
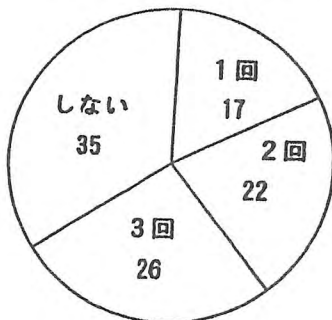
5 アンケート集約結果とその考察

(1) 森林倶楽部会員

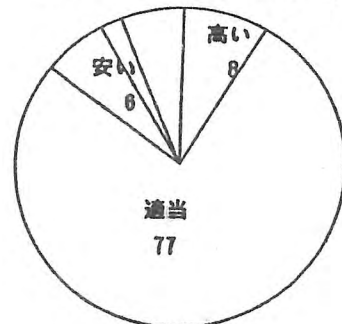
問1 倶楽部を何で知ったか 問2 申し込んだ動機は 問3 加入費は適当か



問4 何回参加したか 問5 イベントの感想は



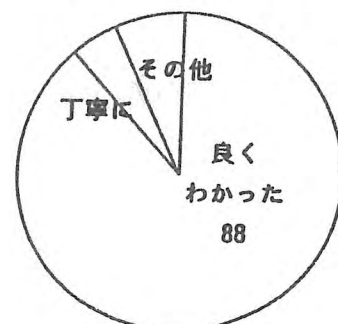
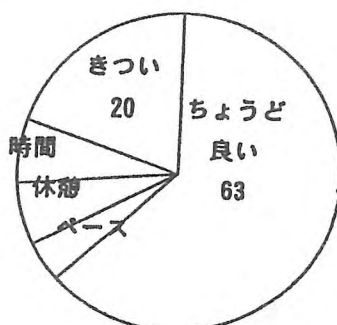
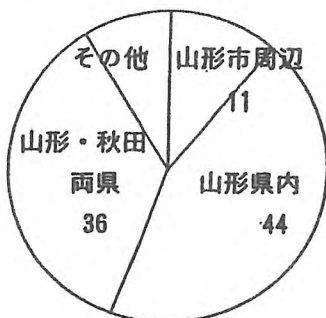
問6 参加費は適当か



問7 開催場所は

問8 時間配分は

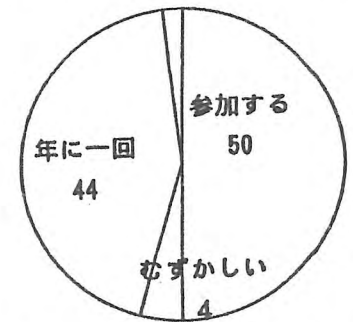
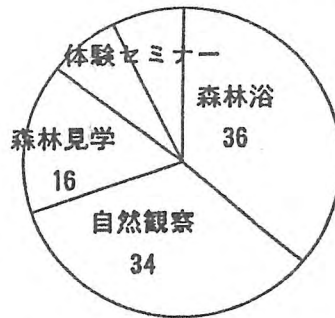
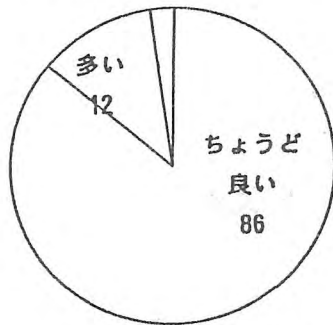
問9 説明内容は



問7の開催場所については、管内の名山（朝日、飯豊、吾妻、鳥海、栗駒月山、御所山、葉山）が多く、中には高山植物の宝庫といわれる早池峰、八甲田、また秋田スギの美林（仁別の森）、白神山地のブナ林の希望もある。

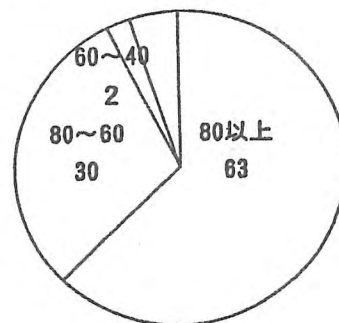
問8の時間配分については、37%の要望があり、問題点を整理すると、①計画が盛りたくさん、②集合・解散の時間設定、③集合場所の順でした。

問10 班編成は 問 11 イベントに期待するもの 問12 宿泊のイベントは



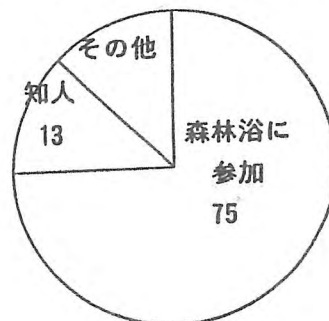
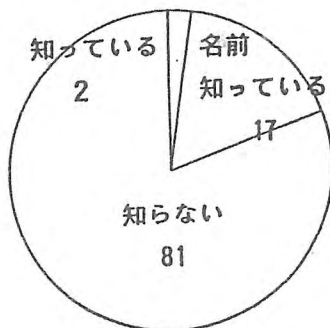
問10の質問では、説明がよく聞き取れないので、15人前後の班編成では多すぎるのではないかの意見がありました。

問13 来年も参加するか 問14 相対評価は

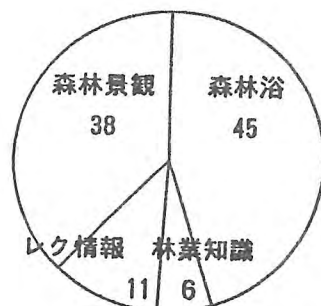


(2) 森林浴の集い参加者

問1 倶楽部を知ってますか 問2 何で知りましたか 問3 参加したいと思うか



問4 どんな事を
期待しますか



(3) 森林倶楽部会員からの感想 (一部抜粋)

ア 森林浴を趣味としておりましたので、森林業務には、あまり興味を持っておりませんでした。しかし数回のイベント参加により多少とも関心を持てるようになりました。

イ 森林・林業・国有林の危機を感じ取り、いかに自然と共存していくべきか改めて自然の大切さを認識しました。公共の空間として、また、緑の財産の価値を多くの人々に理解してもらいたい。

ウ 残雪とブナの美しさに目を奪われ、治山に対する営林署の方々のご労苦に感謝します。今回参加し、ほんのわずかでも森林に対する知識が芽生えた様に思います。いろいろありがとうございました。

エ 今まで自然に親しむ機会が余りなかったが、倶楽部でいろいろ行動できてよい年になりました。植物の名前も少しは覚えることができ、自然を見る目も多少変わってきたような気がします。今後ともよろしく願います。

6 まとめ

＜ 会員の感想の中からもわかるように、森林倶楽部や森林浴の集いの活動を通して自然と積極的に係わりとうするだけでなく、国有林に対する関心も高まって来ています。

会を重ねるたびに、会員相互の親睦が深まり、自然を通して人間関係もできています。 ＞

今後の課題

(1) 会員が、宿泊を伴う企画を希望していることから、厚生施設等の受け入れ体制を整える必要がある。

(2) 会員の中には、秋田営林局管内以外のイベントにも参加したいとの会員がいることから、他局との情報交流を密にする。

- (3) 当管内は、秋田・山形両県にまたがっていることからイベント開催地については会員の要望などを考慮して企画する。
- (4) ただの森林浴（見学）だけでなく、専門知識をもった外部講師の講義等の企画も必要である。(アカデミーとレクリエーション)
- (5) 会員の増加に伴い、インストラクターの確保が必要である。今年度より森林レク協会の資格制度ができたので、この資格を取得し人材を育成することも大事である。
- (6) 森林センターは、市民を対象としたサービス機関でもあり、休日出勤、イベントの際の準備等、営林署と労働条件が異なることがあることから、事前の調整を行う必要がある。
- (7) 今回のアンケート調査結果については、我々の期待した以上の好評を得ています。それにおごることなく市民に親しまれる森林センターを目指し、関係署と密な連携でより良い企画、実践を継続していきたいと思えます。
山形・米沢両営林署のこれまでのご協力に感謝します。